24年度（第8期） 岩瀬文庫ボランティア募集

文庫と市民や来館者をつなぐ架け橋となって、さまざまな分野で文庫の活動を盛り立てていただく岩瀬文庫ボランティアの新会員を募集します。平成23年度（第７期）は20代から70代まで、52名の方が活躍しています。

おもな活動内容

●蔵書を収める中性紙保存箱の作成　●和装本の綴じ糸の取り替え
●体験講座のアシスタント　●講演会の受付や会場設営、資料の作成
●企画展などのポスター・ちらしの発送　●にしお本まつりなどの催しの企画や運営

興味のある方は**ボランティア説明会**にご参加ください。

■平成24年度　ボランティア説明会

日時　平成24年４月21日（土）　午後１時30分～
場所　西尾市岩瀬文庫　地階研修ホール
※予約は不要です。お気軽にご参加下さい。

岩瀬文庫特別連続講座が本になりました

定価：本体1,300円（税別）
四六判・並製・カバー装　220頁
ISBN978-4-305-70585-3 C0021

東京大学史料編纂所に拠点を置く学術創成研究費「目録学の構築と古典学の再生」研究グループと西尾市岩瀬文庫の共催で平成20年から行われてきた特別連続講座から、5つの講演を収録した本が刊行されました。あの日の講演会場の熱気をぜひ、お手元に。

『史料から読み解く三河 ―西尾市岩瀬文庫特別連続講座―』

田島　公（東京大学史料編纂所教授）編

まえがき ―三河の歴史の魅力と岩瀬文庫講座　田島　公
一 丸山御所の時代―吉良氏と実相寺　松井直樹（前西尾市岩瀬文庫長）
二 古代三河の国府・条里・交通路　金田章裕（人間文化研究機構長・京都大学名誉教授）
三 藤原仲麻呂の乱と西三河―軍士石村村主石楯とその一族　荒木敏夫（専修大学教授）
四 参河の海の贄（にえ）木簡のかたること　馬場　基（奈良文化財研究所研究員）
五 持統上皇三河行幸の謎を読み解く　原秀三郎（静岡大学名誉教授）
西尾市岩瀬文庫について
あとがき

お求めは市内の書店または出版社（笠間書院　TEL03-3295-1331　http://kasamashoin.jp/）へお尋ね下さい。インターネットサイト「版元ドットコム」http://www.hanmoto.com/howtobuy.html からも購入できます。

抜粋復刻版『本草圖説』シリーズが完結

『本草図説』195冊は幕末の本草家・高木春山（？～1852）による一大博物図譜で、岩瀬文庫の蔵書の中で最も世に知られた本です。この図譜に収められた美しく迫力ある写生図を手軽にお楽みいただくため、順次、抜粋復刻版を刊行してきましたが、このたび10冊目を以って完結となります。江戸時代の本草学の極みをどうぞお手元でご堪能下さい。

抜粋復刻版『本草圖説』全10冊

（一・二　水産の部／三・四・五・六　植物の部／七　虫・石の部／八　鳥の部／九・十　獣の部）
A4　40頁　1,000円
岩瀬文庫１階休憩室で好評頒布中
※十　獣（二）は平成24年４月上旬より頒布予定です
※三　植物（一）は完売です

雑誌の愉（たの）しみ

～明治・大正・昭和初期の雑誌から～

平成24年４月７日（土）～６月10日（日）

■開館時間　午前９時～午後５時
■休館日　毎週月曜日

入場無料

「雑誌が売れない」と言われるようになって久しい昨今、インターネットや多機能携帯電話の普及で大量の情報が瞬時にやりとりされるようになったことにより、「雑誌の役割はもう終わった」などともささやかれます。

しかし雑誌ほど時代の空気を色濃く反映し、くらし・社会・学術・趣味など幅広い対象を自由に切り取り、それぞれの読者層の興味や関心に寄り添う出版媒体はありません。

本展では岩瀬文庫の所蔵する明治・大正・昭和初期の様々な雑誌をご紹介します。当時の人々の心をとらえた事柄を、ともにひととき愉しんでいただけたら幸いです。

『多納趣味（たのしみ）』　昭和２年
入場券やラベル、マッチ箱など細々したものの収集（コレクター）趣味雑誌

『此花（このはな）』　明治43年
宮武外骨主宰、江戸風俗や美術の考証雑誌

『東京新誌（とうきょうしんし）』　明治９年
明治の新風俗や政治を鋭く批評した社会風刺雑誌

■展示解説
日時：４月28日（土）・５月26日（土）　午後１時30分～
場所：２階企画展示室
※予約・料金は不要です

『JAPAN TODAY & TOMORROW』　昭和13年
大阪毎日新聞社発行の英字雑誌

『植民（しょくみん）』　昭和５年
移民・植民に関する各種情報を掲載する総合雑誌

書厳紹介

『寿寿（じゅーじゅー）』（136―75）１冊（10号分合冊）

『寿寿』は、大正時代に刊行された外国産郷土玩具の趣味雑誌です。第一号巻頭の刊行規定によれば、木版彩色刷り絵を掲載した美濃紙二つ折りの料紙五枚を綴じ、毎月一号ずつ、定価五〇銭で配布されたもようです。また六ヶ月分（六号）ごとに一巻にまとめて装丁し直せるように、別に合冊用の表紙を添えるともあります。何とも手間のかかった雑誌です。岩瀬文庫所蔵の本書は大正七年発行の第一巻六号分と第二巻の一～四号を合冊したもので、本書のほかに大正九年発行の「第三輯」と、大正十一年九月～十三年九月の間に発行した一～十一号を合冊したものも所蔵しています。

表紙に掲載した写真、右ページ上は「瑞西（スイス）木片彩色」のお家、その下は「露西亜（ロシア）地方　木彫胡粉彩色」の農夫と家畜の人形、左ページは「白耳義（ベルギー）　陶製上薬によりて艶あり」な馬と、どれも素朴で可愛らしいおもちゃたちが掲載されています。他にもインド、シャム（タイ）、ジャワ（インドネシア）、セイロン（スリランカ）、台湾、中国、ビルマ（ミャンマー）、マレーシア、イギリス、イタリア、オーストラリア、ドイツ、トルコ、ハンガリー、フランス、南洋（国名不明）など、当時としては世界中といってよい地域から集められた郷土玩具が、鮮やかな彩色絵で紹介されています。

執筆兼発行印刷者の山内神斧（しんぷ）（金三郎／一八八六～一九六六）は大阪生まれの日本画家です。梶田半古に師事し、同門に前田青邨、小林古径、奥村土牛らがいます。彼はまた美術店「吾八」を開いて大津絵や絵馬、郷土玩具などを扱い、その美術的価値の再評価に尽力しました。彼に限らず、明治・大正時代、知識人の間で伝統的な玩具や人形などの愛好趣味が広がっていました。『寿寿』の中にも里見弴や浅井忠、淡島寒月、岡本一平など錚々たる名を見ることができます。

さて、『寿寿』とはちょっと変わったタイトルですが、これは玩具をさすフランス語"Joujou（ジュジュ）"に漢字を当てたものです。「老いて稚気を失わず、玩具遊びに余念無（な）らんは人間不老の妙法として（中略）本字を選んで、めで度（た）き寿を重ねたる所に、又味（たの）ふべき味噌もあるべし」【第三輯はしがき】より抜粋）との由。大正期の洒落た大人の余裕に、わたくしたちもあやかりたいものです。

里見弴の図案による「第２巻２号 ビルマ号」表紙

小林古径画の合冊用表紙

（左）仏蘭西（フランス）　巴里（パリ）
五文人形
木躾に布切の服を貼りまとふ

（右）支那　上海　龍
竹細工彩色

表紙の写真